



迅速な対応で脳卒中患者の命を救う 「低侵襲で安全な医療」を実践する脳神経外科専門病院

脳神経外科の専門病院として全国的にも名を知られる大西脳神経外科病院は、脳腫瘍、脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などの脳卒中、頭部外傷や脊椎・脊髄損傷あるいはアルツハイマー病や脳血管性痴呆症、パーキンソン病など幅広い疾患に高度な医療を提供している。特に命にかかわる脳卒中救命の分野では、その迅速で適切な治療で多くの患者を救ってきた。「脳卒中救命は時間との勝負です。当院では、運動麻痺、痙攣、脳卒中スケールなどの項目で救急隊員が疾患を選別し、専門病院にスムーズに搬送できるプレホスピタルコードを全国に先がけて導入しました」脳梗塞に有効な血栓溶解薬治療（t-PA 治療）が可能なのは、発症後 4.5 時間に限られる。搬送の段階で脳卒中とわかっているならば、初期対応は大きく変わる。「医療が高度化を果たし、救命率は確実に上がっています。次の課題は、開頭、血管内、脊椎、脊髄の手術にしても、より低侵襲で本来の機能を残した医療が求められていることに答え、低侵襲で安全な医療を展開していくことです。また医療費が社会保障費の 32% を超える状況の中で医療経済学、エビデンスに基づく無駄のない医療を重視しています」

2017 年 1 月には明石駅前クリニックの開院、2017 年 7 月には回復期病棟を開設と、地域医療に貢献するための設備も充実させた。「生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する」同院が掲げる理念は医師の技術、機器、設備の充実を前提にしつつ、それを生かす人と、相対する患者が向き合うことではじめて機能する。「医療を展開するのは機械や建物ではありません。それを使う私たちがどう考え、どう行動するかにかかっています」大西脳神経外科病院は、脳神経外科のエキスパートとして、目の前の患者を救うための“最善の医療”の提供を目指している。



理事長・院長
大西 英之

奈良県立医科大学臨床教授。医学博士。2000年12月に大西脳神経外科病院を開院。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。第7回バンパシフィック脳神経外科学会会長、第18回日本臨床脳神経外科学会会長など。